

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
神経心理学		(作.発) 必修 (理.社.精) 選択	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
柁木 隆寿	B306	t.masaki		木曜日 12:30~14:30	
授業の目的・概要	<p>〈目的〉 医療福祉分野で活躍する際に必要となる神経心理学・生理心理学の知識を習得する。具体的には、様々な心理機能と神経系の関係性、そして心理機能と身体の生理反応の関係性についての基本的な知識、そして臨床的知見についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>〈概要〉 心理学やそれに関連する学問を深く学んでいく上で、あるいは福祉やリハビリテーション等の臨床現場で働く際には、脳（神経系）と身体（生理的反応）と心（行動）の関係性についての科学的な知識が必須となる。本講義では「生物-心理-社会モデル」の観点から、神経心理学・生理心理学に関する様々なトピックを概説していく。</p> <p>授業方法として、Microsoft Teams を利用した同時双方向型の遠隔授業を行う。</p>				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	毎回講義に出席し、積極的な態度で受講することを望む。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	臨床神経心理学 / 編: 緑川 昌 他 / 医歯薬出版株式会社 神経・生理心理学 / 著: 坂本 敏郎 他 / ナカニシヤ出版				
外部教材	無し				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	神経系の基本的な知識を習得し、説明することができる。			HSU(2)、(3)、(5)	
②	様々な心理現象と脳の構造・機能との関係性について理解し、説明することができる。			HSU(2)、(3)、(5)	
③	高次脳機能障害についての基本的な知識を習得し、説明することができる。			HSU(2)、(3)、(5)	
④	社会、臨床現場における神経心理学的視点の重要性について説明することができる。			HSU(2)、(3)、(5)	
⑤					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーションと、神経心理学・生理心理学とはどのような学問なのか、そして「生物-心理-社会モデル」について学ぶ。	同時双方向型授業	シラバス・配付資料を熟読し、本講義の概要をまとめる。	3	
2	神経系、ニューロンの構造・機能について学ぶ (1)。	同時双方向型授業	神経系全体、そしてニューロンの基本的な構造・働きについて、配布資料をもとに整理し、記憶する。	4	
3	神経系、ニューロンの構造・機能について学ぶ (2)。	同時双方向型授業		4	
4	脳の構造・機能・発生について学ぶ (1)。	同時双方向型授業	脳の基本的な構造・働き、そして発生について、配布資料をもとに整理し、記憶する。	4	
5	脳の構造・機能・発生について学ぶ (2)。	同時双方向型授業		4	
6	感覚・知覚・運動系について学ぶ (1)。	同時双方向型授業	各機能と構造について配布資料をもとに整理し、専門用語を記憶する。	4	
7	感覚・知覚・運動系について学ぶ (2)。	同時双方向型授業		4	
8	動機づけ・情動・生体リズムについて学ぶ。	同時双方向型授業	関連する脳部位、生理反応を配布資料をもとに整理する。	4	
9	学習・記憶について学ぶ。	同時双方向型授業	関連する脳部位、生理反応を配布資料をもとに整理する。	4	
10	記憶障害・認知症について学ぶ。	同時双方向型授業	各障害の特徴、および関係する神経系の構造・機能について、配布資料をもとに整理する。実際の症例について、自ら調べまとめる。	4	
11	失認・注意障害について学ぶ。	同時双方向型授業		4	
12	失行・遂行機能障害について学ぶ。	同時双方向型授業		4	
13	失語症について学ぶ。	同時双方向型授業		4	

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

14	心の病と発達障害について学ぶ。	同時双方向型授業	実際の症例について、自ら調べまとめる。	4
15	授業全体を総括する。	同時双方向型授業	シラバス・配付資料を熟読し、本講義の概要をまとめる。	5
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照			

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	10	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10

		評価のポイント		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標				
試験	①	✓	講義内容の理解度について、学期末に定期試験を実施し評価する。専門用語を正しく理解し、それを用いて日常例や各現象を説明できるようにしておく必要がある。脳部位の名称、機能を正しく暗記しておく必要もある。		学内掲示、オフィスアワー、そして、Microsoft Teams を利用して総評を行う。
	②	✓			
	③	✓			
	④	✓			
	⑤				
	⑥				
レポート	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
その他	①	✓	毎回の講義でリアクションペーパーの提出を求め、その内容を採点する。リアクションペーパーには講義中に出される課題への解答、および講義内容に対する理解、発見、疑問などのコメントを記述することになる。内容の妥当性、問題発見能力を評価する。		学内掲示、オフィスアワー、そして、Microsoft Teams を利用して個別にフィードバックを行う。
	②	✓			
	③	✓			
	④	✓			
	⑤				
	⑥				

備 考

他 担 当 教 員	該当せず
教員の実務経験	無し
実践的授業の内容	該当せず
そ の 他	<p>Microsoft Teams を使って同時双方向型の遠隔授業を行う。 課題ダウンロードなども行うので、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意すること。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスが変更される場合がある。</p>